



JSQC ニュース

No.384, 385合併号

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 「社会基盤型輸送システム品質保証研究会」研究準備会の設置に当たって
- 2-私の提言 顧客価値経営のすすめ
- 2-各賞表彰 / 2020年7月の入会者紹介
- 3-佐々木真一氏デミング賞本賞受賞 / デミング賞各賞 / 小原好一氏日経品質管理文献賞受賞
- 4-第50年度事業計画 / 研究助成募集のお知らせ / 第50年度役員役割分担表 / 行事案内

「社会基盤型輸送システム品質保証研究会」研究準備会の設置に当たって

労働安全衛生総合研究所 岡部 康平

この度、信頼性・安全性計画研究会から独立する形で、新規研究会設立に向けた準備会を設置する運びとなりました。新規研究会では、交通・物流系における自動・自律化の先端技術が社会インフラの基盤として社会に定着するために求められる品質管理、特に、品質保証の在り方について、学術的にも実務的にも検討を進める計画です。

昨今の航空機や新幹線の運行に代表されるように、交通・物流分野の自動化技術は人（運転手）が手動操作するよりも、より安全で効率的な無人運行が可能なまでに進歩しています。この自動・自律化技術の発展は目覚ましく、既に、自動車、ドローン、移動ロボットなど多岐分野に及んでおり、新たな交通・物流系の社会インフラを築く重要な基盤技術になりつつあります。その一方で、人工知能技術の産業応用と同じく、未だ様々な技術課題を内包しており、また、技術活用のための社会制度の整備も十分ではありません。最新技術であるが故に、品質管理にまで議論が及んでいません。

交通・物流系の社会基盤的な事業が成功するためには、多企業の様々な製品が混在する自律・分散系の運用制度と、それら製品群を統括管理する統合・管制系の運用制度との両立が重要課題となります。個別製品としての通常の品質管理だけでなく、公共サービスとし

ての品質管理も欠かせません。しかし、その様な包括的な運用体系、さらに、その管理体制は、議論や研究がまだ希少であり、それらの確立に向けて、より多くの科学的知見が求められています。

これまでに信頼性・安全性計画研究会では、社会インフラの寿命設計や安全管理を1テーマとして議論してきました。社会インフラに求められる特有の品質概念などを検討しました。そして、より幅広く活発な活動へと展開を図るため、信頼性・安全性の枠を超えて、新たに研究会を立ち上げることにしました。この新規研究会では、交通・物流系の社会基盤的な新規事業の創出・参入を促進することを目標に掲げ、品質保証の観点からドローン等を用いた次世代型輸送システムの運用・管理体制を検討することにより、ドローン等の産業規格化や認証制度などの整備に貢献したいと考えています。

準備会で検討するテーマは①自動車の自動安全運転技術、②ドローンの自動航行技術、③サービスロボットの自律搬送技術の3分野を予定しています。自動車分野における自動・自律化技術の実証実験は世界中で実施されています。ドローンの社会導入においても、国際航空法の改正や国際製品規格の新規策定などが世界規模で進んでいます。このような世界的競争の中で、日本でも国家的プロジェクトで自動・自律化

技術の産業応用が推進されていますが、ビジネスモデル等の策定支援や事前評価をも支援する枠組みのあるプロジェクトは多くありません。準備会では、新規研究会の成果が新規事業のビジネスモデル等に反映されるように、新規研究設立後の課題設定と目標成果をより具体化します。

準備会の期間中は、上記3分野に加えて人工知能、品質管理関連規格、ロジスティックス、ソーシャル・マーケティング（公共サービス・イノベーション）の専門家にも協力を仰ぎます。最新技術と産業化の動向について情報共有するとともに、品質管理学会規格（新製品・新サービス開発管理の指針）の活用についての理解も深めます。そして、研究会として発足後は、まず、(1) PPP/PFI制度に代表される官民連携事業の成功事例を調査するとともに、(2) 官民連携事業のビジネスモデルをシステム論的に分析するためのモデリング（一般化・体系化）を行い、(3) 運輸における自動・自律化技術が社会インフラとして定着するための技術的・制度的課題を検討するためのフレームワーク（議論の概念図）を形成します。それから、(4) それら課題に対処するための品質管理全般を持続可能性（Corporate Sustainability）の観点から検討し、具体的な品質保証の体制・体系を提言したいと考えております。

● 私の提言 ●

顧客価値経営のすすめ

東海大学 金子 雅明



顧客価値経営が重要であることは周知の事実であるが、品質管理を専門にする本学会員にとりわけ強くお勧めしたい。

ご存知の通り、「品質」とは組織が提供した製品・サービスに対する顧客の評価である。評価が高ければ品質が良く、評価が低ければ品質が悪いというように、顧客のニーズを基準にして判断される。そして「管理」の目的とは、質の良い製品・サービスを効率的、継続的に提供することであり、そのための達成手段として業務のやり方、仕組み、マネジ

メントシステムの構築・推進に焦点を当てる。これが、品質管理の基本アプローチである。

一方で、顧客価値とは顧客が製品・サービスを使用・消費することによって得られる効用や便益のことである。得られる効用や便益の質と量の両面において、対価と比べて顧客にとって意味があり、十分に役立っていると感じ、結果として満足しているのであれば、それは顧客に何らかの価値、すなわち顧客価値があると認められ、製品・サービスの提供を通じた顧客価値提供が行われた、と解釈できる。そして、この顧客価値提供活動を経営の中核に据えるのが、顧客価値経営である。

このように理解すれば、我々学会員が従来「品質」と考えていたことは、世の中で重要視されている「顧客価値」

と類似していることに気づく。むしろ、品質とは製品・サービス提供を通じて顧客に提供される価値、すなわち顧客価値に対する顧客の評価であると、意図的に拡大解釈をすれば、まさに品質管理は顧客価値経営そのものとなりえる。つまり、品質管理に長年取り組まれてきた本学会員は、顧客価値経営について一歩も二歩も他よりも先んじており、これを実践する素地や基盤が十分に備わっていると思われる。筆者が本学会員に顧客価値経営をお勧めする一番の理由はここにある。

「JIS Q 9005：2014 品質マネジメントシステム－持続的成功の指針」をご存じだろうか。2018年に発行されたJIS Q 9004と名称や思想は似ているが、これよりも4年も前に発行された日本発TQM規格であり、事業・経営の持続的な成功基盤は顧客価値提供にあると説き、顧客価値提供マネジメントシステムをいかに構築し、運用すべきかの手順を提示している。素地や基盤も既にあり、参照できる指針も揃っている。さあ、今から顧客価値経営を始めよう！

各賞表彰

第50回通常総会において、第49年度最優秀論文賞、研究奨励賞、品質技術賞 各1件、品質管理推進功労賞3氏の授賞および表彰が行われました。

【第49年度 最優秀論文賞】

『臨床検査業務における特性要因図を用いた力量評価項目導出方法の有用性検証』

下野 僚子 氏 (東京大学)

秋永 理恵 氏 (飯塚病院)

水流 聡子 氏 (東京大学)

「品質」Vol. 50, No.3, pp. 46-56 (2020)

【第49年度 研究奨励賞】

神田 博 氏 (横浜国立大学)

『重み付き条件付き操作変数推定量の性質と工程解析への応用』

著者：神田 博／黒木 学 「品質」Vol. 50, No.2, pp. 48-58 (2020)

【第49年度 品質技術賞】

松本 哲夫 氏 (ユニチカ株)

『非直交実験の実務への適用』

著者：松本 哲夫／芦高 勇気 「品質」Vol. 49, No.4, pp. 63-70 (2019)

【2020年度 品質管理推進功労賞】

澤田 昌志 氏 アイシン精機(株)

清水 義浩 氏 東レグループ 滋賀殖産(株)

菅田 直美 氏 (株)イデソン／元日本電気(株)

2020年7月の入会者紹介

2020年7月9日の理事会において、下記の通り正会員11名、職域会員1名の入会が承認されました。

.....
(正会員11名) ○田畑 雅央 (東北大学病院) ○井上 正史 (SCREENセミコンダクターソリューションズ) ○榎原 弘之 (九州工業大学) ○赤星 孝行 (安川電機) ○福村 文雄 (飯塚病院) ○富永 勇司 (ジェイテクト) ○土屋 満智子 (丸善石油化学) ○松山 政隆 (ダイキン工業) ○宮寄 伊弦 (豊田中央研究所) ○中橋 傑 (京都セミコンダクター) ○越井 信弥 (コマツ)

.....
(職域会員1名) ○古谷 哲朗 (東洋紡)

.....
 名誉会員：22名

正会員：1782名

準会員：82名

職域会員：53名

賛助会員：151社194口

賛助職域会員：9名

公共会員：17口

佐々木眞一氏・本学会元中部支部長 今年度デミング賞本賞を受賞

トヨタ自動車株式会社の元副社長で、本学会第46～47年度中部支部長を務められた佐々木眞一氏が今年度のデミング賞本賞を受賞されました。同氏は、1970年北海道大学工学部卒業、同年トヨタ自動車工業（現



トヨタ自動車）に入社した後、一貫して品質関連業務に従事されました。近年では、日本科学技術連盟理事長、中部品質管理協会会長に就任されるなど、今日でも品質管理界で幅広く活躍されています。

佐々木氏は「自工程完結」の提唱者としても知られています。製造現場で培われてきた「品質は工程で造り込む」という基本的な考え方を、スタッフ職場にも適用させることで、全社の品質改善に取り組まれました。TQMを導入している多くの組織が「自工程完結」を学ぶことで、品質経営の一層の充実が期待できます。

また、本学会の中部支部長に在任

の間においても、支部の運営・発展に大きく寄与されるとともに、



2018年2月に開催された緊急シンポジウムにおいては当時問題となっていた品質不祥事の再発防止への提言を発信されました。

このように佐々木氏は、TQMならびに品質管理界の発展に多大な貢献をされてきました。本学会としても、佐々木氏のデミング賞本賞受賞は大変名誉なことです。誠におめでとうございました。

デミング賞各賞

デミング賞委員会（委員長 中西 宏明）において、2020年度のデミング賞各賞、日経品質管理文献賞の受賞者が決定し、授賞式は11月11日経団連会館にて執り行われました。

1. デミング賞本賞
佐々木 眞一 氏 トヨタ自動車株式会社 元副社長／一般財団法人日本科学技術連盟 理事長
2. デミング賞
アート金属工業株式会社（長野県上田市）
3. 日経品質管理文献賞
「JSQC選書31 戦略としてのクオリティマネジメント ～これからの時代の"品質"」
小原 好一 著

小原好一氏・本学会元会長 日経品質管理文献賞を受賞

本学会第47年度会長を歴任された小原好一氏（前田建設工業㈱常任顧問）の著書、JSQC選書31『戦略としてのクオリティマネジメント～これからの時代の"品質"』が、今年度の日経品質管理文献賞を受賞されました。

同書において小原氏は、我が国の「ものづくりのクオリティ」は、度

重なる不祥事に加えて、コモディティ化により競争力を失いつつある現状を憂い、経営の基盤戦略として不可欠であり、将来に亘り真摯に取り組む必然性を希求しています。

他方、組織が更なる成長を果すためには、基盤戦略に立脚した革新戦略に踏み出す必要があり、これか

らの時代の革新戦略に資するクオリティとして、エクセレントサービス、生産革新について本学会の取組状況を詳説するなど、今後の品質経営のあり方について提言しています。

本学会の発展に向けて尽力された小原氏の功績が認められての受賞であり、心よりお祝い申し上げます。

一般社団法人 日本品質管理学会 第50年度事業計画

会 合	月	2020 10月	11月	12月	2021 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
年次大会・通常総会			第50回 オンライン 28日(土)												第51回 中部地区 20日(土) 予定
研究発表会	本部・中部・関西								本部 29日(土)			中部 25日(水)	関西		
講演会	本部・中部・関西・西日本									関西		中部			
JSQC規格講習会	標準委員会					プロセス保証 の指針	品質管理教育の指針		小集団改善活動の指針		新製品・新サービス 開発管理の指針				
シンポジウム	本部・東日本・ 中部・関西						第169回 東日本 3日(水)		50周年記念 シンポジウム 28日(金)	中部 6月or7月	関西				
クオリティーク	東日本				第120回 19日(火) 棟近氏 第121回 28日(水) 高橋氏										
事業所見学会	本部・中部・関西・西日本					中部	関西			中部・関西					
QC サ ロ ン (関 西)		13日(火)													
そ の 他 の 行 事		ANO2020 韓国(オンライン) 22.23											ANO2021		
理 事 会		462回 11月12日(木)	463回 11月28日(土)	464回 15日(火)	465回 18日(月)		466回 19日(金)		467回 20日(木)		468回 15日(水)		469回 14日(火)		○
庶 務 委 員 会		29日(木)	5日(木)	9日(水)	12日(火)		11日(木)		○		○		○	○	○
学術委員会 論文誌編集		15日(木)	16日(月)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※論文投稿は委員会の開催10日前までをお願いいたします。直前の投稿では審査開始が遅れることがあります。

事務局からのお知らせ

第50年度研究助成募集要項

趣 旨：21世紀を担う若手研究者や海外からの留学生に対し、その研究活動をサポートすることを目的とします。個人の研究への助成はもちろん、同じようなテーマを抱えた少数の若手研究者の研究集会への助成、海外の若手研究者の招聘への助成なども含みます。

助成金額：1件5万円 5件以内

期 間：1年間（第50年度：2020年10月～2021年9月）

募集期間：2020年12月～2021年3月末日

詳 細：<https://www.jsqc.org/ja/oshirase/jimukyokukara.html>

第50年度役員体制決まる

会 長	二橋 岩雄	トヨタ自動車
副会長	永田 靖	早稲田大学
理 事	若林 宏之	デンソー
	安随 正巳	日本科学技術連盟
	伊藤 誠	筑波大学
	金子 雅明	東海大学
	川村 大伸	名古屋工業大学
	熊井 秀俊	リコー
	斉藤 忠	岡谷電機産業
	佐野 雅隆	千葉工業大学
	澤田 昌志	アイシン精機
	鈴木 直人	日野自動車
	鈴木 秀男	慶應義塾大学
	高橋 勝彦	広島大学
	永井 義満	明治大学
	西 敏明	岡山商科大学
	仁科 健	愛知工業大学
	平林 良人	テクノファ
	古谷 健夫	クオリティ・クリエーション
	森田 浩	大阪大学
	安井 清一	東京理科大学
	山本 涉	電気通信大学
	吉川 勝也	日本規格協会ソリューションズ
	綿民 誠	ジェイテクト
	渡辺 喜道	山梨大学
監 事	新木 純	積水化学工業
	新倉 健一	前田建設工業
	光藤 義郎	日本科学技術連盟
顧 問	大久保尚武	積水化学工業
	小原 好一	前田建設工業
	棟近 雅彦	早稲田大学

第50年度役員役割分担表

総合企画	○二橋 永田 若林 各委員長
学術論文誌あり方検討WG	○伊藤 鈴木(秀) 森田 永田 他
JAQ設立準備	○古谷 二橋 永田 鈴木(直) 他
庶務	○古谷 金子 佐野 鈴木(直)
庶務・選挙管理	○古谷 佐野 西 斉藤
会員サービス・QC相談室	○西 鈴木(直)
規定	○古川
会計	○安随
品質管理推進功労賞	○二橋 永田 若林
活動	○二橋 永田 安井
事業・広報	○斉藤 熊井 山本
研究開発	○鈴木(秀) 永井
学会誌編集	○伊藤
JSQC選書特別	○[飯塚(悦)]
東日本支部	○永田
中部支部	○仁科 澤田 川村 古谷
関西支部	○綿民 森田
西日本支部	○高橋 西
サービスエクセレンス部会/生産革新部会	○伊藤 ○安井
医療の質・安全部会	○棟近
ソフトウェア部会	○[兼子]
管理技術部会	○金子 平林 [福丸]
標準	○平林
学術	○森田
論文誌編集	○森田 渡辺
Total Quality Science 編集	○渡辺 [黒木]
最優秀論文賞/研究奨励賞	○永田 森田
品質技術賞	○若林 伊藤
研究助成特別	○川村
学会間交流	○佐野 永田 鈴木(秀)
FMES・横幹	○金子 永井 ○伊藤 佐野
国際(ANQ)	○佐野 永田 [鈴木(知)] [山田]
安全・安心社会技術連携特別	○伊藤 [中條]
TQE特別委員会	○[鈴木(和)] 古谷

◎委員長、支部長、部会長 [] 役員以外の方

行事案内

●第120回クオリティーク（東日本）

テーマ：価値創造経営の勧め

ゲスト：棟近 雅彦氏

(早稲田大学/第48・49年度JSQC会長)

日 時：2021年1月19日(火)18:00~20:00

会 場：Zoom会議室 (Web)

詳細・申込：<https://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#r030119>

●第121回クオリティーク（東日本）

テーマ：顧客価値創造のために、多様性と効率性を共に高める生産管理へ！

ゲスト：高橋 勝彦氏 (広島大学)

日 時：2021年1月28日(木)18:00~20:00

会 場：Zoom会議室 (Web)

詳細・申込：<https://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#r030128>

●第169回シンポジウム（東日本）

テーマ：変化の時代に対応した、持続的成功を達成する組織能力を高める品質マネジメントの実践

日 時：2021年3月3日(水)13:00~17:00

会 場：Zoom会議室 (Web)

講演者：中條 武志氏 (中央大学)

青木 恒享氏 (テクノファ)

安藤 之裕氏 (安藤技術事務所)

光藤 義郎氏

(日科技連/元文化学園大学)

申込締切：2021年2月24日(水)

詳細・申込：<https://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#r030303>